

なつ やすみ とく しゅう ごう
夏休み特集号
う じ や ちょう
「宇治の野鳥」

宇治市政だより

8/1
平成5年
(1993年)
号 外

発行 京都府宇治市
〒611 京都府宇治市
宇治琵琶33番地
☎ (0774) 22-3141
編集 広報課
●毎月1日・11日・21日発行



カワセミ



メジロ



ゴイサギ



ウグイス



トビ



シジュウカラ



ヒヨドリ



スズメ

カワセミを見たことがありますか? 「市の鳥」となっているこの美しい鳥には、宇治川や太陽が丘などで会うことができます。ほかに市内には、思いがけないほど、いろいろな野鳥がいます。今回しようかいするのはすべて、宇治で見られる鳥たち。さあ、いっしょに「野鳥の世界」を訪ねてみませんか!



アマサギ

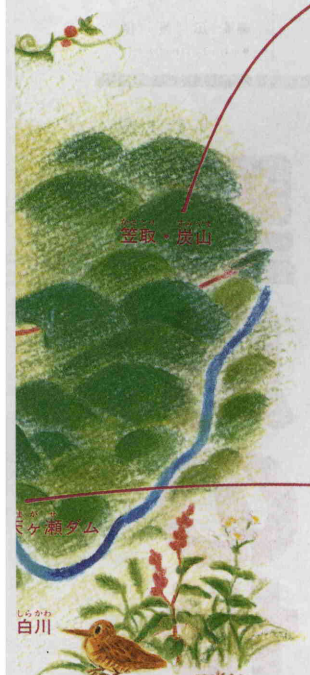
野鳥の世界へようこそ

かきとり すみやま
■笠取・炭山

志津川から炭山へと続く谷川では川面を飛ぶカワガラスが。そして、笠取地区ではキジ、コジュケイ、春には、林からアオゲラ、アカゲラが枝をくちばしでつく音が聞こえることも。そのほかセキレイ、ウグイス、コゲラ、ヤマガラ、エナガなどが谷間を飛び、タカの仲間のサシバ、ハチクマ、ノスリ、ハイタカ、オオタカが空をまわっています。



カワガラス 川の中を自由に歩きまわり、ビツビツと鳴きながら、石から石へ飛び移る。全長122cm。留鳥。



ハクセキレイ 川の岸のどろ地を歩きまわる。顔が白く、目のところに黒い線が通っている。全長=21cm。留鳥。

しらかわ 白川
水鳥のカルガモ、アオサギ、コサギ、ゴイサギの周辺では、ホオジロ、カワラヒワ、ムク冬になればツグミやジョウビタキが木のつ中は、エナガやシジュウカラ、メジロ、見られます。また、白川の少しおくに入れた水田や茶畑ではキジやコジュケイが。



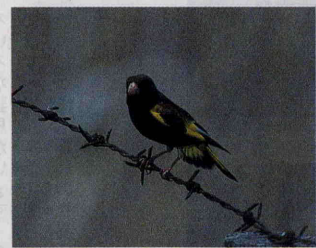
エナガ 体の長さの半分がしっぽの、小さな鳥。雑木林の枝から枝へ、群れて動く。全長=14cm。留鳥。

あまがせ
■天ヶ瀬ダム付近

ダムの下では、魚をねらうコサギ、アオサギ、ゴイサギや、セグロセキレイ、ハクセキレイが、ダム湖では、カルガモ、早朝にはヤマセミも見られます。山では、ホオジロ、ウグイスのほか、イカルの鳴き声も聞こえます。冬にはツグミ、シロハラ、マヒワが群れて木の実をついばむのが見られるでしょう。



ゴイサギ 首や足が短く、ずんぐりむっくりしたサギ。目が赤く、頭に二本の長く白い羽がある。全長=57cm。留鳥。



カワラヒワ つばさが黄色で、体は緑色。ヒマワリなどの種を割って食べるのが得意。全長=15cm。留鳥。



モズ と取った虫などを枝にさしておく「はやにえ」で有名。全長=20cm。留鳥。



ヒヨドリ 全身は灰色でほおは茶色。町中にも住み、木の実やつばみを好んで食べる。全長=27cm。留鳥。

野鳥図鑑

宇治
うじ
やちようずかん

宇治でも、じっくり観察してみると、約200種類もの野鳥が見られます。ここでは、そのうち主なものをしょうかいします。さあ、これを片手に、鳥を探しに出かけよう！



シロハラ 冬の林からビヨビヨという声を残して飛び立つ。全長=25cm。冬鳥。



コゲラ ギーツと鳴きながら雑木林を飛び回る、小型のキツツキ。タラララと大きな音（ドラミング）で木をつつく。全長=15cm。留鳥。



ヤマガラ よくしげった林でツーツーフィーとさえずる。腹と背が赤茶色。全長=14cm。留鳥。

アマサギ 頭はオレンジ色。くちばしは黄色く、草むらのバッタやカエルを食べる。全長=50cm。夏鳥。



アオサギ 頭に黒いかんむりのような羽を持ち、くちばしと足は黄色い大型のサギ。全長=93cm。留鳥。



コヨシキリ ススキやイネなどの植物の中で、枝から枝へつりながらこん虫をとる。全長=13cm。夏鳥。



チョウゲンボウ 畑や河原の上空から急降下して、スズメなどをつかまえる。ハヤブサの仲間。全長=オス33cm、メス38cm。留鳥。

ケリ その名のとおり、ケリツ、ケリツとはげしく鳴く。田んぼや河原にいて、足が長い。全長=36cm。留鳥。



宇治橋付近

このあたりにはコサギ、アオサギ、ゴイサギや、カイツブリなど、数多くの水鳥がいます。冬になれば、ユリカモメのほかマガモ、ヒドリガモなどカモの仲間が多く見られます。また、宇治公民館あたりには、山の鳥のコゲラやヒヨドリ、ジョウビタキ、ヒレンジャクなどもやってきます。

コサギ 頭に白い冠のような羽を持ち、足の指が黄色いところが特徴。全長=61cm。留鳥。



カワセミ ヘリコプターのように空中で羽ばたきながら止まって魚をさがし、見つけたとすぐに水中に飛び込む。全長=17cm。留鳥。



ユリカモメ 冬、川の水面に群れる。赤いくちばしがあざやかな水鳥。全長=40cm。冬鳥。

太陽が丘

野鳥の森の池には、サギ、カワセミが、池ドリたちが見られます。実をついばみます。材ヤマガラ、コゲラなどるとオオルリが、山から見られることもありま



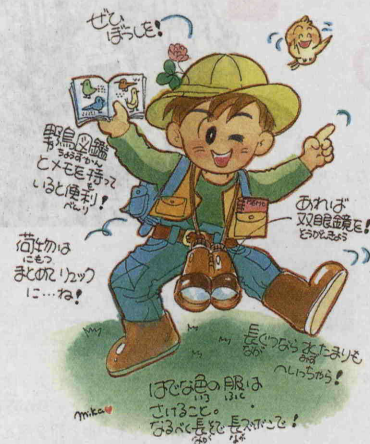
ヒレンジャク ヤドリギの実を食べる。つばさと尾の先が赤く、頭の後ろに羽が出ている。全長=17cm。冬鳥。



マガモ やって来る時、な色。やがてオスは、しが黄、頭が緑、首に白いう美しい色に変わる。=オス61cm、メス53cm。

野鳥を見に行く時は…

野鳥を見に行く時には、次のような服そうで。友達と「どこに、どんな鳥がいた」などの情報を交かんし合うと、いろいろな鳥を見ることができます。それから、下の「心得」はぜひ、守ってください。鳥たちの世界をのぞかせてもらうのですから、鳥たちに迷わくをかけるのは、当たり前ですね。



野鳥を見る時の心得

- (その1) 無理して鳥に近寄らないこと。
- (その2) 大きな声を出さないこと。
- (その3) 石などは投げないこと。
- (その4) 田んぼや畑をふみ荒らさないこと。
- (その5) ごみは持ち帰ること。

夏鳥…夏に日本に来るわたり鳥
冬鳥…冬に日本に来るわたり鳥
留鳥…1年中同じ場所で生活している鳥

鳥おじさんの お話 ヒナと親鳥



「京都府南部ジュニア野鳥教室」の中島愛治さんは、野鳥を心から愛する、とてもやさしい「鳥おじさん」です。これは中島さんから聞いたお話です。このお話を読めば、きっと皆さんにも、「野鳥を大切にしよう」とはどういうことか、わかるでしょう。



少なくなったサンコウチョウ(右)とコミミズク(左)

市内の白川には、サンコウチョウというめずらしい鳥がいます。おぼろの長いとでもきれいな鳥です。この鳥を「目見よう」と、京都だけでなく、大阪や神戸からも多くの人がやって来ます。でも、むかし、サンコウチョウはそんなにめずらしい鳥ではありませんでした。また、白河池の川には、少し前までは、フクロウの仲間のコミミズクがたくさんいて、さうで有名でした。でも、少しずつ数が減って、今はほとんどその姿は見られませんが、鳥には羽があまりありません。開き進んで、かん境が悪くなったり、たくさんの人が見に来たりして、巣が壊れて、住みやすくなったりと、住みやすくない所を求めて自由に飛んでいってしまっています。宇治でも年々、野鳥は少なくなってきました。鳥

たに安心して住み続けてもらうためには、川をきれいにしなければなりません。鳥を観察する時にも、こわがらせないようにしなければなりません。鳥に迷わすをかけてはいけません。ある日の夕方、わたしのところに小学四年生の女の子から電話が入りました。「巣から落ちたヒナ鳥を拾ったんですが、どうしたらいいんでしょうか?」行ってみると、かわいいういメジロのヒナがいます。木の枝に落ちていたそうなんです。と、あやうく預けて帰りました。さやをやりました。次の日の朝、その木の枝にヒナ鳥を連れて行って、みると、なんと、親鳥が、羽の上でまわっているではありませんか。わたしがヒナを枝に乗せると、親鳥は、せつせとえさをあたえ始めました。もうこれでいいでしょう。いいえ、本当はヒナを拾わず、そのままにしておいてよかったのです。多くの鳥のヒナは、メトリルも飛ぶことができないようになれば、巣から出て、枝につかまらず、親からえさをもらいながら成長します。しかしこの時、うまく枝に止まらず木の枝に落ちてしまったヒナがいます。このメジロもきつと、そうだったでしょう。でも、親鳥は

決してかわいいわが子を放つておいたりしません。ちゃんとゆう導して、安全な場所へ連れて行ってやります。そして、ヒナたちは、きつと、ヒナたちは、つかまえることができないほどに成長し、やがて巣立つて行くのです。ですから、もしヒナ鳥が落ちていても、必ずしも、連れて帰ってえさをあたえる必要はありません。かわいいういから、かわいいういからと連れて帰ると、せっかくここまで育てたお父さん鳥・お母さん鳥がかわいいうい、さやをね。木の枝や人通りの少ない場所に置いてやりさえすればよいのです。

けれど、どうしたらいいでしょうか? すぐかけつけると、拾われたヒナは、その男の子といつしよに、ヒナを田んぼに連れて行く、親鳥がかわいいういヒナをさがして、盛んにケツケツと鳴いています。その声聞いて、今度は、ヒナ鳥がピーピーと鳴き始めました。「ねえ、お母さん鳥が呼んでいるね。早くお母さんのところにこの子を返してあげようよ」わたしは言う、男の子は「うん」といいます。ヒナを返して置きました。ヒナは親鳥の方へ、とことこと歩いて行き、親鳥

鳥もヒナの方へ歩いて来ます。そして親鳥は、「無事でよかったねえ」と言うように、ヒナの頭をちよんちよんつきました。男の子はこの光景をじつと見ていた。そして、「よかったね」といいます。帰って行きました。

みんなが野鳥を大切にしたら、宇治が野鳥の天国になった。いいな。わたしはいつもそう思っています。

「京都府南部ジュニア野鳥教室」は、野鳥観察や自然の保護などの活動を行っています。入りたい人は、中島愛治さん(23・3479)に連絡してください。



わざわざ山や川に行かなくても、あなたの家の庭やベランダなどで、野鳥を見ることができます。えさ台や巣箱を作って、鳥たちを呼び寄せて、観察してみましょう。きつと、スズメだけでなく、いろいろな鳥たちがやってくるはずです。

野鳥と仲よくなろう



エゴの実を食べに来たヤマガラ(左)とカワラヒワ(右)

えさ台にはいろいろな種類があります。簡単に作るなら、おかしなどのかんふたや、太い竹を二つに割った物でいいでしょう。屋根をつけてえさが雨にぬれないようにすると、鳥も喜びます。また、えさだけでなく、水を飲んだり、水浴びしたりできるように、植木鉢用のプラスチック製の皿で水場を作ってあげるのも良いでしょう。与えるえさは鳥によってちがいます。ミカンはメジロ、カキの熟したものはワグリスの大好物。ヒマワリの種にはカワラヒワ、シメのほかにシジュウカラ、ヤマガラ、ときにはメジロもやってきます。また、ヤマハゼの実をかき根に置いておくと、ツグミ、モズ、ジョウビタキがやってきます。そういった物がなければ、給食の残りのパンくず、ごはん、いたみかけたリンゴなどのくだもの、干したス



ヒマワリの種を食べに来たシメ

イカ、カボチャの種など、身のまわりにある物でもかまいません。えさは一度置く場所を決めたら動かさないように。そして、いつも欠かさないように置いてやるのが大切です。また、置く時期は、えさを見つけるのに苦労する冬から始めるのが良いようです。えさを食べに鳥たちが来たら、おどろかさないう、そつと観察してみましよう。慣れてきたら、手のひらからえさをついばみ、友だちになれるかもしれません。



巣箱かけ

巣箱を利用するのは、自然にできた木のほら穴や、石がきのすき間などの中に巣をつくる習性を持つ野鳥たち。シジュウカラ、ヤマガラ、スズメ、ムクドリなどです。巣箱は、縦・横約15センチ、高さ約25センチの木の箱。横板の1枚は、開け閉めできるようにします。また、前板には鳥が出入りできるように、上の方に3センチくらいの穴を、底板には水がたまらないよう1センチくらいの穴を、それぞれ開けておきます。



前板の左上の小さな穴から、鳥が出入りします

巣箱をかける場所は、庭などの木なら、3メートルくらいの高さに。スズメ、ムクドリは家のベランダでもだいじょうぶです。また、出入り口の穴を、窓や、人が出入りする側に向けないように。10月から1月ごろにかけると、鳥が冬のねぐらに使うので、そのあと卵を産んだりヒナを育てたりすることが多いようです。うまく鳥が巣づくりをしたら、卵を温めていても中をのぞかないように。安心してヒナを育ててもらえるよう、そつとしておいてあげましよう。ヒナが巣立ったら、巣箱をはずし中をさうじして、またかけておきましょう。